

2011年7月2日(土) 公演時間午後2時より
猪苗代観光ホテル 原発被災者慰問公演

福島県双葉町浪江町の方々が、約200名以上避難されている避難所に慰問公演に行き参りました。避難所に行ってみると土曜日の為か人影もまばらでした。玄関には階段にお年寄りが座り、またホテルの回りにはあてもなく歩いている人、生きる希望さえ失っている姿のように見えました。ところが、公演時間30分前になると、たくさんの方達が詰めかけて下さいました。今回このご縁をつないで下さった浪江町にお住まいだった大浦様ご夫妻、お二人には震災後3月24日に生まれた新しい命の大和ちゃんがいる、自分達も避難している状況の中、沢山の皆様にお声を掛けて下さいました。先月公演させていただいた猪苗代リステルホテルからバスを借りて来て下さったり、ポスターを見て「ポスター見ただけで、すごくきれいだったから楽しみに来たの。」と他の避難所からわざわざ来て下さったり、避難先の新潟から来て下さったり会場に200名以上の方で大盛況でした。長引く避難生活、身も心も疲れている方々が沢山のいて、4カ月近くもなると世間から原発被災者の存在そのものも忘れ去られている、その様な時になってはじめて一瞬だけでも心の慰めになってくれれば…、曼珠沙華の出番がやっと必要性になってくる時だと感じています。

今回は豪華絢爛、藤中夢弥座長の花魁ショーのオープニング、幕が開くと同時に皆の感嘆のため息がもれていました。華天女のピンクの布で優しく癒す月光の祈りの舞、龍華組のアップテンポの活力、動の舞！そして夢弥座長と響のお笑い「天宝山」においては、爆笑の渦!!終了後、皆さん本当に笑顔で、「こんな素晴らしい舞台を見せてくれて本当にありがとう！」

「元気ができました！」と皆さん溢れんばかりの笑顔と喜びの言葉で帰って行かれました。また公演終了後、大浦様の旦那様より、「こんなにたくさんの方からありがとうと言われた事はありません。」と、そしてまた、公演を見た方から

「こんなに小さな舞台上で踊ってもらうにはもったいなかった。」
「こんな素晴らしい舞台を無料で見せてもらって…」、
そして「飯伊達村をはじめたくさんの避難所にも来て欲しい。」
といわれたと嬉しいお声でお電話を頂きました。
今まで一生懸命築きあげて来たものを、いつ帰れるかも分からぬ
わが家に全て残し、避難所にいる…この希望を無くしているかの
ように見えた方々の気持ちを理解する事は到底難しいですが、
このお電話で、皆様の心を喜ばせることが出来たように
感じました。まだまだ私達も未熟ではありますが、避難所の人達
が曼珠沙華に対する人々の輪が大きくなり、完全に皆様の心の
奥まで届いたと思えた1日でした。



最後に皆さんで曼珠沙華流御挨拶「イエーイ！」



大浦様ご夫妻と震災直後に産まれた
大和ちゃんとママローザ

「今回の東日本大震災で多くの犠牲者が
出ました。その裏では新しい生命の誕生。
この21世紀、日本も全てのもものが
新しく生まれ変わろうとしています。
大和ちゃんの誕生がどれだけ多くの人達の
未来と希望を背負っていく子供に
なってくれることを願い大和ちゃんの
30年後がとても楽しみです。」

大浦様ご家族に祝福あれ。」

とママローザ